

## 別記様式(第4条関係)

## 会議録

会議の名称	令和5年度加東市部活動あり方検討委員会
開催日時	令和5年7月7日(金) 19時00分から20時35分まで
開催場所	加東市役所2階 201会議室
議長の氏名 ( 委員長 森田啓之 )	
出席及び欠席委員の氏名	
	〔出席〕 12名 森田啓之委員 中原公寿委員 竹内守男委員 山平康弘委員 三村勇委員 藤本進委員 伊藤賢吾委員 平川真也委員 岸本善仁委員 岸本大介委員 家本典子委員 岸本孝司委員
説明のため出席した者の職氏名	なし
出席した事務局職員の氏名及びその職名	こども未来部 参事兼学校教育課長 井上聡 学校教育課 係長 郡龍仁
議題、会議結果、会議の経過及び資料名	
	〔議題〕 (1) 委嘱書の交付について (2) 加東市部活動あり方検討委員会設置要綱について (3) 委員長・副委員長の選出について (4) これまでの状況等について (5) 各団体等の現状や今後の課題等について (6) その他 〔会議結果〕 (1) 委嘱書の交付について (2) 加東市部活動あり方検討委員会設置要綱について 異議なし (3) 委員長・副委員長の選出について 委員長に森田啓之委員、副委員長に平川真也委員を選出 (4) これまでの状況等について 国、県、市の動きについて説明 (5) 各団体等の現状や今後の課題等について 各委員間で意見交換 (6) その他 特になし

〔会議の経過〕

1 開会

(事務局)

ただいまから令和5年度第1回加東市部活動あり方検討委員会を開会します。

開会にあたりまして、加東市教育委員会事務局こども未来部参事兼学校教育課長の井上聡が、挨拶申し上げます。

(井上参事)

スポーツ庁から、中学校の部活動の地域移行の方針が出されました。

その中には、これまでの中学校の部活動を見直して、持続可能なものとするのが求められています。

子供たちの家庭生活、学校生活の現状、それから、先生方の働き方、地域クラブ、社会体育等のあり方等いろんな要素がその中には含まれていると思います。

各団体の現状等も踏まえて、加東市ならではの地域移行ができたかと考えています。

中学校の部活動については、小学校から中学校へ入ってくるときに、子供たちも非常に楽しみにして入学しています。各中学校の部活動の現状も踏まえて、そして地域のクラブ、団体の現状も踏まえて、地域移行ができたかと考えています。

ご意見を出していただいて、加東市のスポーツ全体を見直す意味で、ご協力いただきたいと思います。どうかよろしく願いいたします。

(事務局)

レジュメの2番、委嘱書の交付につきましては、失礼ながら、お手元にお配りしておりますので、それをもちまして、交付とさせていただきますこと、よろしくお願いいたします。

では、本日第1回目の会議ですので出席者の皆様の自己紹介をお願いします。

〔委員自己紹介〕

(事務局)

レジュメの3番、加東市部活動あり方検討委員会の設置要綱についてです。

〔要綱内容確認〕

では続きまして、レジュメの4番、委員長、副委員長の選出についてです。

先ほど、要綱の方に第5条、委員長は委員の互選により選任するとしております。委員長の選出につきまして特にご提案なければ、事務局の方からご提案させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

〔異議なし〕

では、委員長のご提案ですが、県の地域スポーツ推進団体の連絡会議の委員長もお務めになられまして、学校部活動の地域移行に関しまして、中心となってお活躍されております、兵庫教育大学大学院の森田先生にご就任いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔異議なし〕

(事務局)

それでは設置要綱にございますように以降の進行を委員長にお任せするとともに、設置要綱にございますように副委員長の選任をお願いします。

(委員長)

副委員長は加東市中体連会長も務めておられます、社中学校の校長、平川先生にお願いしたいと思います。

[異議なし]

(委員長)

地域の方も、いきなりこの話が出ていろんな不安とか心配があると思います。また、それぞれの市や町によって展開は変わってきますので、遠慮なくご意見をお願いします。

まず、これまでの状況等について事務局からお願いします。

(事務局)

部活動地域移行に関する様々な動きについて、また地域移行の全体の概要について説明をさせていただきます。

教育委員会としましては、まず令和4年度の7月に教職員への意識調査ということでアンケートを行っています。

土日の部活動について、地域や外部指導者をお願いしたいという意見をお持ちの先生方が64.7%、6割を超えるご意見がございました。

それから、地域や外部指導者が無理な場合は、自分が指導すると答えた方が17.6%、土日でも自分が指導するが、外部指導者に一緒に指導して欲しいという方が13.2%、土日でも自分が指導したいという方が4.5%というような結果が出ております。

このアンケート結果を受けまして令和4年の8月に教職員への概要説明ということで、部活動の地域移行の大まかな流れにつきまして、説明をいたしました。

その後、令和5年1月に、加東市内の保護者向けに文書を配布しました。

以降、4月14日から、関係団体の各会にお邪魔をして、概要説明に回らせていただきました。

3ページからは、各団体の皆様への説明の時に使いましたスポーツ庁のホームページに掲載されている資料をつけております。

学校部活動はこれまで学校教育の一環として行われてきましたけれども、それが今後、少子化の中で、持続可能な体制にする必要、地域とともに子供たちを育む体制づくりが必要ということで、休日の地域クラブ活動に移行していきます。

4ページは、学校部活動及び新たな地域クラブ活動のあり方等に関する総合的なガイドラインということで、これまで、運動部活動や文化部活動におきまして、ガイドラインが、設置をされておりましたけれども、これを運動部活動、文化部活動の二つを統合した上で全面的に改定されてガイドラインが出ております。

国の大まかな流れとしては、まずは、休日における地域の環境の整備、また、平日の環境整備はできるところから、段階的な体制の整備、令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間、また可能な限り早期の実現を目指す、ということで示されています。

5ページには様々な地域移行の形態が、イメージとして示されています。

6ページは保護者向けに配布をした文書です。

この中に、今後のスケジュールの予定として、令和5年度・6年度、加東市部活動のあり方検討委員会を設置して、今後の方向性や成果、課題等を検討・協議していくことをお示ししました。

令和7年度から、土日等休業日の部活動に関して、段階的に地域へ移行することで、配布をしました。

なお今年度は、部活の指導に関しまして部活動指導員、これは部活動の技術だけではなくて、単独で練習や練習試合の引率ができる身分ですが、市内で現在のところ10名配置しています。

それから外部指導者、こちらは技術指導がメインになりますが、現在のところ1名配置をし、今後もまた拡充していく計画です。

(委員長)

この国が言ってるイメージですけど、これについて、何か確認あるいはちょっと疑問な部分があれば、遠慮なくいかがですか。

(委員)

これ、一つの教育改革の一環として、教育委員会がなされようとしているような気がするんです。

だから今までやってら、一生懸命部活を指導している先生、帰宅部の先生、一生懸命やりよる先生こそ、子供は一生懸命先生の方を向いてますよと、根本的に先生の教育せなあかんということを口幅ったい言い方で、言うたことがあるんです。

平成20年、武道を奨励しようという流れの中で、剣道する子、柔道する子という形で選択肢がありました。

その時に、指導者がなかったので寝技ぐらい教えてあげると手を上げたが、いやいや、外部からは入って欲しくないんやと。

中学で部活がなく、高校行って様々な怪我があり、柔道は危ないもんやということで、レッテルを貼られたんです。

その時に、いやいや違うだろ、怪我がないようにするために、まずは何をやるんやというような話をしたんやけども。

その後は武道場の中に、それは廃品回収も出してもいいぐらいな柔道着、剣道の防具、実際これ、自分のお金で柔道着買っていたら、しっかり使った後はみんな洗濯するはずでしょ。

けどもあくまでもこれは学校のもんです。今の子供は、それを上手に使うというのが下手な子どもも多いから、もったいないな、やっぱり、本当に教えないならんのは、武道なのか、部活動なのか。違うんだろ、ものを大事にする、当たり前のことかな。

喜んで参加させていただく気はあるんですけども、根本的に文科省の打ち上げ花火で終わってまうん違うかなと、ましてや子供のいろんな成果いうのは、多分1年、2年で見えてこないと思います。

まずは楽しくなくて続けることができるんかな。

この先生のパーセントの中でも、みんながみんな諸手を挙げて賛成もしておられませんが、ある意味熱心な先生からすれば、外部コーチやそんなんは、ごめんですよというようなことも危惧されるんじゃないかなと。

だから、なかなかしっかりしてやらない限りは、所詮、打ち上げ花火で終わってしまうかなと私は思いました。

適当に先生のサポートだけでええんやったらあえて言わせてもらうんやったら、しない方がいいと思う。関わってやるんやったら、精一杯関わる。

(委員長)

本音の部分の言ってくれたので、すごくありがたいです。

学校の先生もいらっしゃいますが、やはりこれ一つは学校教育として、ずっとやってきて先生方に自負がある部分も結構あると思います。

それがちょっとずつもう限界にきていて、その枠組みの中で、外の人材に協力してもらおうっていうふうな動きが、もう三、四十年前で。

また、地域の人だったら、協力してもらうのはありがたいけど一方では、学校の先生が暗黙に了解している内容が、ずれてしまうんじゃないかなっていう、学校の中も、そ

この部分が揺れているいろんな意見で、まさにそれが経験されたのかなあとと思います。

そこから10年以上たってきている中で、やっぱりこの部活動の問題は今回、突然出てきた話じゃなくて、もう20年以上前から、もう国はスポーツクラブ21、兵庫県版なんですけど、全国には総合型の地域スポーツクラブで、中学校区という話がかもともあります。

兵庫県は、やっぱり地域で学校と一緒に子供たちも、育てていくという発想で小学校区なんですけど、あの発想も全部、スポーツ文化活動を、ある意味地域にゆだねていくという動きです。

もう一方では、そういう新しい可能性をわかりつつも、学校の先生も熱心だし、そんなに安易に地域に渡すと、またいろんな混乱があるんじゃないかというところのせめぎ合いで、動かなかったんです。

どのタイミングでと言ってる時に、少子化加速と働き方改革です。

これをきっかけに変わるところもあるし、正直市によってはうまく進まないで大混乱するところもあると思っていただいいていいです。

それぐらい大変な、でもその混乱をどう進めていくか、そのためには、やっぱり今までの部活動でのいろんな経験とか思いを、学校の先生もそうですし、地域の人も、1回脇に置きフラットな議論をしていくスタンスが必要だと思います。

そういう意味で、地域移行というより地域展開と言った方がいいと思います。

これは中学校部活動という限定なので、中学生の子供たちの文化スポーツ活動を、地域、学校も少なからず加わって、どう協力するかですかね。

地域で巻き込んで、まさに小学校段階と同じような形で、そういう意味では、少年団のようなイメージととらえてもらってもいいし、もしかしたら、人数の関係で、小学生と一緒にやっていくようなことを最後に出てくるかもしれない、もうこれは種目によってもそうだし、地域によっては様々です。

学校だけではもう議論できないので、加東市では中学校が3つになっていく中で、そこだけでもできるのかどうか含めて、地域の実情に応じ、とあるように、阪神間と但馬では全然状況が違います。

そこをやっぱり、それぞれが総がかりで知恵を出し合って、子供たちにとってベターの選択をどうするかなど。

今までできてたことができなくなることもあるし、できなかったことができるようになる可能性もあるというふうにとらえていただけたらと思います。

そうしましたら、各団体の現状や、今後の課題というふうなところですね、あと、学校の先生方には今の子供たちの現状ですね、中学生がどんな感じに変わる部分があるというあたりですね、報告いただけたらと思います。

(委員)

少年サッカークラブの代表もしてまして、今、どこでもクラブ化っていうのがすごく進んでます。

サッカーとしては、どこの地域からも募集をかけ集められる。縛りがないんですよ。

逆に僕はスポーツ少年団の中でやっていますので縛りがあり、加東市内から来てくださという形なので、何かそういうスポーツの団体の流れも含めて、考えていったら、答えが見えてくるんじゃないかなという感じです。

僕が魅力的なクラブにすれば、集まってくるんで、僕は僕なりの答えを見つけていったら、このあり方、部活のあり方に対する何かこう、プラスになるような答えが出るんじゃないかなあとは思って考えてます。

文化連盟のほうからですと、今一番の課題は後継者問題です。

皆さん本当に舞台に立たれて、ご披露する場もあるんで、幸いすごい皆さん頑張ってるんですけども、若手の後継者っていうのが、実際いなくて、皆さんそのことが今一番課題で悩んでらっしゃる。

もしこの委員会の中で、中学生とか小学生を絡めて活動できれば、もしかしたらその後継者問題に関わる解決方法っていうのも、ここにすごく魅力があるなっていうふうに思ってます。

(委員)

資料にスポーツナビがあるんですけど、スポーツ協会は、一応 17 団体です。

中学にあるクラブということを見ると、ある程度ちょっと限定されています。

スポーツ協会で今現状では結局、まず指導者不足というのがあり、クラブ員もやっぱり減ってきております。

できるだけ新人募集いうのを考えて教室を開いたりいろいろ皆さん各協会、知恵を出したりしてやっております。

(委員)

スポーツクラブ 21 が、やしろ、たきの、とうじょうとあります。

ここに載ってる五つの別にですね、あと総合スポーツとかフットサルとか、そういうのもあるんです。

スポーツクラブ 21 自体はできて 10 数年になります。

本来の目的は、いろんな種目をやりましょうという形でスタートしたんですけども、実際は今、そういう人はほとんどいなくてですね、1 種目だけするような形で、本来の形では残ってないのかなと思います。

できた当時、40 代 50 代だった方が卓球とかテニスとかを、いまだにやってるんで、皆さん 70 代、場合によっては 80 代の方がですね、元気に卓球してるんですけども、間の一般の青年がいない。

フットサルとか総合スポーツの方がですね、小学生が結構多くて総合スポーツ 80 人ぐらい、フットサルは、40 人ぐらいいるんで、そちらの方ですね。

小学生は入れるんですけども、中学生となると、ほとんどいないということです。

20 数年前、子供に硬式テニスをやらしてたんですけども、中学校になると、クラブがソフトテニスしかないんですよ。

中体連とかの大会出たいんで、学校に出たいんですけどと言うと、出してもらってもいいですけど、学校は連れていけないんで、親御さんだけ行ってくださいみたいな感じですね、そういう形で、すごく学校でやってる部活動と、地域でやってるサークルと、ものすごいなんか、差があってですね、いろいろ苦労したなっていう思いがあるんです。

スポーツクラブ 21 できた頃はですね、非常に県からお金が出てたということで、各種目団体が外部から講師を呼んだりしてですね、例えばスリムアップ体操とか、健康体操とかいうのは、専門の講師を呼んでも、払えるだけのですね、資金が県から出たんで、当初多分数年間には活発に活動されてたんですけども、お金が出なくなったらほとんど、スポーツ 21 は衰退していった状況です。

実際、指導者が出せるかっていうと、それぞれの活動するのが精一杯で、指導者を出せるような状態ではないという状況です。

(委員)

スポーツ推進委員の方はどっちかという市民の方、一般対象っていう形で、参加し

ていただくんですが、中学生限定というのは、今までやったことがない。

ただ、小学校の出前講座、ニュースポーツ関係ですね、クラブ活動されてるような球技とかではなしに、新しいスポーツを広めようという形で、そういうことをしたいというお子さんが、学校単位であった場合、そこに指導及び教育で、ルール説明とか、出前講座はさしてもらってました。

ただやっぱり、行く中で、平日等になりますと、推進員は、働いてる方が主なので、休日の活動が主になっています。

(委員)

子供は、今年部活動を初めてしました。

今回中学校になって部活動でサッカーして、うちの子どもは部活動は、そんなにしんどくないような感じで言うんです。

やっぱり指導者もあると思うんですけど、経験のある人とかが指導回ってもらえれば、サッカーも面白くなるのかなとは思っています。

加東市の部活動も、経験のある技術のある指導ができる人の方で教えてもらったりしたら、もっとええようになるのかなとは思っています。

(委員)

部活動に入る生徒の割合自体は、この市内の附属含めて4校で9割ぐらいです。

それはもう運動部文化部含めて、全部です。

以前は市立3校については、全員入部制であったものが、数年前から希望入部制に変わって、ただなお入部の割合が9割という状況であります。

ただそれでも、部員数が足りない部活というのが、複数出てきています。

これは生徒数の減少が一つあるんですけども、結果それはもう加東市だけではなくて、県、要は県下全体同じ傾向があって、そうすると入っていても大会に出場できないとか、練習ができないような状況が続いていた中で、中学生に広くスポーツ活動ができる場を設けるという趣旨から、条件がありますが、例えば合同チーム、二つ以上の学校や、合同で出場することができます。

もう一つは、拠点校方式といって、地区にその部活がある学校が一つしかない。

でも他の学校でもその競技をやりたいという生徒があった場合に、その学校を拠点として、部活動を行うという形です。

それからもう一つは、学校の部活動ではなくて、地域クラブ、地域スポーツをやっている団体からも、中体連主催大会に出場できるという制度が今年度からできています。

学校活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインを遵守していることとあります。

このガイドラインの中に、例えば休日、土日2日あるうちの1日は、休日として、活動しないという規定があります。

それから、1週間の中で、平日は2時間程度っていうような規定、それから土日に関しても、3時間程度という、つまり学校部活動のガイドラインと、適したというかその活動に合った日常的な活動が行われていることという要件があって、それに該当しない場合は、出場できません。

(委員)

実際僕も、どれも経験したことのない競技、まず一番の先生方の負担は、自分の専門外の競技を担当することが一番です。

最初は、生徒に申し訳ない気持ちでずっと部活動に取り組みながら、子供たちと一緒に聞きながら、自分でも、いろんな先生とか知ってる先生に聞いて勉強するんですけど

ど、やっぱりそれが一番時間かかりますし、正直申し訳ないと思いつながらやってるのが一番しんどかったです。

今はもう部活動をすごい楽しみながらやっていますし、子供たちがうまくなりたいと思って活動してると思っています。

自分の時間よりも、生徒のために使えたらいいかなと思ってはいるんですけど、休日に出勤しないといけない。

そこで生徒引率であるとか、生徒の人数上、一年生と一緒に体育館に入れてしまうと、どうしても練習が効果的にできないとなると、活動のルールを守りながら土曜日に2年生、日曜日に1年生にしようかとなります。学校の仕事も忙しい中で、土日に活動するのは、一番しんどいです。

自分はすごく楽しみながらやっていますが、部活動を教えたいと思って学校の先生になられてる方は、そこまで多くないと思うので、そういう先生方からすると負担になっているのかなと思います。

今はクラブチームもたくさんありますし、いろんなところで見させていただいてるので、学校の部活に入らなくても、他のところで入ったら入らなくていいとしてるので、結構自分が主体的に活動し、すごいやる気のある子たちが多いなと思います。

ただ中には、誰々が入ってるから私も入るっていうことで、自分は興味ないけどもその部活に参加して、なかなか身が入らなくて、なかなか思いが伝わらなかつたりすることもあり、そういうところの指導の難しさはあると思います。

(委員)

先生方の意識調査があったんですけども、自分も数年前までは、土日は1日練習とか、練習試合とかやりましたが、コロナで練習はもう一切できないとか、土日がどちらか休まなきゃいけないという感じで、それまで勝利を目指してやってた先生方は、モチベーションをどこに向けていいか難しいと思います。

あと、部活動指導員5人の方が来られて、平日も含めて指導してもらってます。

これまでに、先生と指導員の方がうまいかないっていうところもあれば、逆にやっぱり来てもらって、すごく技術指導してもらえるといるところもあり、その辺も難しいなあと言うふうに感じます。

(委員)

部員が少ないですが、活発に活動は取り組んでいます。

小学校と中学校が一緒の校舎ですので、小学校のクラブ活動の時間に、中学生が教えるという取り組みもしています。部活等に、前向きな目標ができるような取り組みもあります。

部活動指導員の先生はサッカー部とバドミントン部で世話になっています。

顧問が経験者ではないので、技術指導の面で、とても心強いと言っていました。

部員が少ないので野球は合同で総体に出ました。

吹奏楽部に関しては、私自身勉強したり、子供と一緒にしたりしているんですが、技術面では吹奏楽に関しても、プロの方に来ていただくとても助かるなあっていうのはあります。吹奏楽団さんだとかにボランティアに来ていただいたりして、ちょっと教えてもらったときはとてもありがたかったです。

(委員)

生涯学習課としては、それぞれの団体の事務局みたいな形で、いろいろ活動されてる方を支援してるような形で取り組んでいます。

特に人生100年時代ということで、小学生にチャレンジスクールということで、いろ

んな活動をチャレンジしてもらっています。

その中で、文化のところ、茶道であるとか、生け花であるとか、幼いときにそういうことを経験したら、仕事とかいろんなことがあったとしても、高齢者になってちょっと手が空いた時にできないかというところがあります。

また、地域子ども教室で、先生とか大人、お父さんお母さん以外の大人の方と触れ合う機会ということで、地域の方に入っていていただいて活動していただいております。

裾野を広げていくという意味では、幼いときからいろんな活動イベントを組んでいく中で、参加していただけたらということで取り組んでいます。

部活動では、いろんな選択肢ができたと思います。

先生方が一生懸命やられたことは、やっぱり子供たちに絶対伝わってるなと感じていますので、今の地域の受け皿がどんな状態なのかというところを探りながら、着地点を探っていけないといけないというふうに思いました。

(委員長)

次回以降、この課題集約とか整理をして解決の協議、検討に向けていきたいと思えます。

(事務局)

今年に関しましては、今回含めまして年4回を全部で予定をしております。

以上をもちまして、第1回加東市部活動あり方検討委員会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

令和5年9月6日